

## ゆるいコミュニケーション・ラボ

- Yurui Communication Laboratory

開設: 2016年2月3日  
 代表者: 小川 克彦(環境情報学部教授)  
 関連Web Site: <http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/yurulab.html>  
 連絡先: 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス γ(ニュー)棟B  
 Tel: 0466-49-3441

## ● 構成メンバー

小川 克彦	環境情報学部教授:ラボの代表者として、運営を統括する。
熊坂 賢次	環境情報学部教授:主に、学習や知の創発のための新しいコミュニケーションのあり方について、研究を行う。
加藤 文俊	環境情報学部教授:主に、フィールドワークの場におけるコミュニケーションのあり方について、研究を行う。
水野 大二郎	環境情報学部准教授:主に、一般市民の創造性を発見するためのデザインリサーチを行う。
若新 雄純	政策・メディア研究科特任講師:ラボのプロデューサーとして、主に外部との連携推進や研究企画の立案を行う。
牧野 百男	SFC研究所 上席所員
市川 博久	SFC研究所 上席所員
坂本 啓介	SFC研究所 上席所員
高橋 智子	SFC研究所 所員
納富 順一	SFC研究所 所員
青野 光一	SFC研究所 所員

## ● 目的

異なる能力や立場、価値観を持ったいろいろな人たちが関わり合うことで、新しい社会のシステムやサービスを生み出す「オープンイノベーション」は、どのようなコミュニケーションによって促進され、創発されるのでしょうか？ 本ラボラトリでは、会社・学校・自治体・地域コミュニティなど社会のいろいろな組織と一緒に実験的なプロジェクトやフィールドワークを行い、そのコミュニケーションのあり方を教員と外部研究者が共同で研究・模索していきます。

現代のいろいろな社会的問題の多くは自分の外側にあるのではなく、自分を含めた社会との関係の内側に存在しており、それは時代とともにとても複雑になってきています。そして、その問題に対する「答えや解決策」といえるものはもはや存在すらしないのかもしれない。つまり、問題を解決するのではなく、問題そのものと付き合っていくということが求められています。

そこで、これまでの「問題発見・問題解決」のアプローチにしばられず、プロジェクトへの参加者すべてがそれぞれの考えや発想、疑問、違和感などを自由にぶつけ合い、「自分のこと」として実験や研究を楽しめる「ゆるいコミュニケーション」の場をつくりだしていきます。

「ゆるいコミュニケーション」は複雑化したいろいろな社会的問題と柔軟に付き合っていくためのきっかけ(トリガー)であり、試行錯誤の冒険です。研究メンバーはその価値に注目し、「答えや解決策」にかわる「いろいろな立場や意見」を見いだしていきます。そして、白か黒かだけではない「グラデーション」のある社会を実現するための、新しい行動ポリシーを明らかにしていきます。

## ● 研究活動計画の概要(2016年2月～2017年1月)

1. 企業活動におけるオープンイノベーション政策の実証研究
2. 地方自治体や地域社会における若者や女性を中心とした市民協働活動と創発的コミュニケーションに関する実証研究
3. 地方都市への移住政策の調査とオープンイノベーション誘発に関する実証研究
4. 若年無業者による新しい社会活動とコミュニケーションに関する実証研究
5. 多様な経験や価値観を持った若者の就職やワークスタイルに関する実証研究
6. 「ゆるいコミュニケーション」の行動ポリシーと学習プログラムに関する実証研究

